

Minami Kyushu University Junior college Syllabus

シラバス年度	2024年度	開講キャンパス	宮崎キャンパス	開設学科	国際教養学科				
科目名称	人間形成論				授業形態	講義			
科目コード	511110	単位数	2単位	配当学年	1	実務経験教員		アクティブ ラーニング	○
担当教員名	長友 泰潤							ICT活 用	
授業概要	人間発達と教育について考察する。学生が意欲を持って授業に参加できるように、グループ学習を導入する。いじめ、不登校、ジェンダー、学習塾、家庭内暴力等の中から、学生自身がテーマを選び、図書館や情報処理室、Wi-Fiの使える場所において、資料研究を行い、パワーポイントにまとめ、それを発表し、質疑応答と解説を行う。								
関連する科目	心理学・社会学・現代社会論								
授業の進め方 と方法	学生が積極的に授業参加できるように、グループ学習のシステムを導入し、学生が与えられたテーマを選んで、図書館やインターネット情報で資料研究を行い、それをまとめて、パワーポイントにより発表を行う。その発表について、他の学生も参加し、質疑応答を行っていく。終了後の補足説明は教員が行う。								
授業計画 【第1回】	学生がグループを作り、図書館やあるいは情報処理室、Wi-Fiの使える場所で、書籍やインターネット情報を用いて、どの哲学者をテーマとするか研究調査する。								
授業計画 【第2回】	上記の結果をもとに、テーマを絞り込んでいくと同時に、情報処理室やWi-Fiの使える場所でパワーポイントでのスライド作成の準備を開始する。								
授業計画 【第3回】	それぞれのグループが選んだテーマが重ならないように調整し、引き続き、情報処理室やWi-Fiの使える場所でパワーポイントでのスライド作成を行う								
授業計画 【第4回】	いじめについて、学生がパワーポイントを使って発表し、質疑応答を行う。								
授業計画 【第5回】	不登校について、学生がパワーポイントを使って発表し、質疑応答を行う。								
授業計画 【第6回】	障害児教育について、学生がパワーポイントを使って発表し、質疑応答を行う。								
授業計画 【第7回】	LGBTQについて、学生がパワーポイントを使って発表し、質疑応答を行う。								
授業計画 【第8回】	家庭内暴力について、学生がパワーポイントを使って発表し、質疑応答を行う。								
授業計画 【第9回】	トラウマについて、学生がパワーポイントを使って発表し、質疑応答を行う。								
授業計画 【第10回】	生涯スポーツについて、学生がパワーポイントを使って発表し、質疑応答を行う。								
授業計画 【第11回】	フリースクールについて、学生がパワーポイントを使って発表し、質疑応答を行う。								
授業計画 【第12回】	少年法について、学生がパワーポイントを使って発表し、質疑応答を行う。								
授業計画 【第13回】	トライやるウォークについて、学生がパワーポイントを使って発表し、質疑応答を行う。								
授業計画 【第14回】	子どもの虐待について、学生がパワーポイントを使って発表し、質疑応答を行う。								

授業計画 【第15回】	総括。今までの発表を振り返る。
授業の到達目標	①子どもの概念のあり様や変化について理解する。 ②社会がもつ子どもへの視野や子どもへの働きかけを理解する。 ③子どもにとって重要な学校についてその始まりや重要性について理解する。 ④子どもが置かれている現状について理解する。 ⑤人の生き方が多様化し、常に学び続けるようになることを理解する。
学修成果との関連	1. 自ら考える能力を有する。／2. 自分の言葉で表現できる能力を有する。／6. 地域社会への貢献に必要な知識・技能を有する。
授業時間外学習【予習】	1. プレゼンテーションとパワーポイント作成の準備のため、図書館で関連書物を検索読書し、必要な情報を集める。(60分程度) 2. インターネット情報を活用し、関連する情報・資料を収集し、検討を行う。(30分程度) 3. スライド作成作業を続けながら、プレゼンテーションの内容を充実させていく。(30分程度)
授業時間外学習【復習】	1. 他のグループの行ったプレゼンテーションの問題点を検討する。(60分程度) 2. その検討をもとに、自分たちのプレゼンテーションへのフィードバックを行う。(30分程度)
課題に対するフィードバック	自身の発表及び、他のグループの発表について、各グループで要約・評価し、それを提出。
評価方法・基準	発表内容 30% 発表のやり方 30% 質問に対する対応 20% 質問回数 20%
テキスト	必要に応じて配布資料を用いる。
参考書	○田中克佳 教育史 ○八木透 日本の通過儀礼 ○鳥越皓之 「サザエさん」的コミュニティの法則 ○磯田道史 武士の家計簿 ○加野芳正 新しい時代の教育社会学 ○佐藤晴雄 生涯学習概論 ○木村元 日本の学校受容 ○片桐芳雄・木村元 教育から見る日本の社会と歴史
備考	